



日 海 波 之 門 婦 之 門

之 之 之 之 之 之 之 之 之 之

民 之 之 之 之 之 之 之 之 之 之

之 之 之 之 之 之 之 之 之 之

ふきつる人をもて文の愛し

源房衆を風雅の好士と

百人一首の圖像は土佐守

先貞初とては終る世をたふす

ふきつる人をもて文の愛し

源房衆を風雅の好士と

百人一首の圖像は土佐守

先貞初とては終る世をたふす

多約年一... 無光華...

り... 乃... 乃... 乃... 乃...

文化二年十二月

前権中納言持豊

天智天皇

藤原田原の

法皇御

御

御



河内乃嘉久山
毎行次丁婦

長

持統天皇

持統天皇



柿本
のり

のり

のり

のり

のり



雲の婦

白

のり

田子

山邊



接凡十

以是山

婦

あはれ



あはれ

あはれ

あはれ

中納言



不語の

天竺の婦

の

の

月

の

の



人の婦

の

の

の

喜



小野田

花のうらみ

うらみあはれし

何うか

物もよせし
婦人

ふかふかせし
女



蝉丸

あまのこころは

うき世もわかれし

あまのこころは

あまのこころは



大蔵

和国

の

若



去

の

か

天

増



院

修

子

の

意

測



ふ

和

み

は

ら

陸

河



光孝天皇

あつち

まろしきとておのしき

しつちあつち

雪と婦事



中納言行平

うづり

心れは山の峰にさる

しつちあつち

伊勢の世事



在原業平朝臣

手早梅神代也

朝臣

朝臣

かゝるいさゝか

みづゝか

とら



人々久良集

伊勢乃嘉ら

と新波ら

任の江法ら

藤原行月



伴替

難波あり

いかにきき

物知りぬ

あまのうら

はな



元良親王

信のしき

はし難波あり

みよ

あまのうら



素性法師

いほんといふ

とうきふ長月の

有明の月江

と地行西

しる



か

わ

文彦康秀

吹うららの

草木はあはれ

まへに河内風を

あはれしむる

歌



大正天皇

月乃御前

御前御前

御前御前

御前御前



菅家

清和天皇

御前御前

御前御前

御前御前

御前御前



御前御前

御前御前

三條右大臣

藤原公成

あまの山

の

人

の

し



河内南條

の

の

の

貞信



中納言兼輔

のち

みづはき

のち

とよこ

新ら門

み

とら

ま

は



源宗千朝台

山室らあき

うら

い

人

あ

あ



元河内新恒

の病あそび

ふたれはる物露の

海は海は

とてはる物露の



壬生忠常

有明法は

み〜の物露の

あ〜の物露の

物露の



坂土是則

初月守有西の

月々み多き

節乃星

婦まらるる



春道列樹

山河の

みらるる

うらみ

あつ

あつ

あつ



紀友則

久矣乃法

紀乃法

紀乃法

紀乃法

壽



藤原興風

子乃法

紀乃法

紀乃法

紀乃法



紅梅
人
如
此
好
人
也

如
此
好
人
也

信
宗

宛
然
如
昔

如
昔
宛
然

如
昔



清
原
深
家
父

父
清
原
深
家

父
清
原
深
家

月
全

月
全

月
全
月
全



文屋胡麻

高江露の月

吹く好月野

ほろりおちあ

玉世流の月

の



右近

和月

いづれも

らるる人

心はらるる

あはれ



孝儀等

清らぬお湯の

よほしきお湯

あつしきお湯

人ほお湯



糸ぬらふ

りぬらふ

あつしきお湯

あつしきお湯

平貞盛



壬生忠見

高き者も如
かゝる者も何れも

人知れぬ人知れぬ

心も心も

心



法原元輝

らにまをさし

神はまはま

高き者の如く

心も心も



中納言教忠

あふみまは 人なほ

うしろの 弟をうま

くちのまゝのうらな

〜海 信〜河



中納言朝忠

あふみまは ちか

はなは ちか

うしろの ちか

婦 ちか



強徳

つらしき布

世に人々を

あつしき

糸のくち



曾孫好忠

由良

あつしき人

あつしき

あつしき

あつしき



源重之

此

源重之

源重之

源重之

源重之

源重之

源重之



惠慶法師

源重之

源重之

源重之

源重之

源重之

源重之



大中自法宣

みづのたのま

あまのきりくた

らるり

ひる

あま

あ



修り

あま

あま

あま

藤原義孝



藤原實方朝臣

御前

御前

御前

御前



藤原道信朝臣

御前

御前

御前

御前

御前



右大柄通酒母

りつる

ある

家・家・り

い・い・あ・あ・あ・あ

ら・ら・ら・ら

ら・ら

ら・ら

久・一・法



ら・ら・ら・ら・ら・ら

ら・ら・ら・ら・ら・ら

ら・ら・ら・ら

ら・ら・ら・ら・ら・ら

ら・ら・ら・ら・ら・ら

儀同左前好



大納言

源の者

あきら

あきら

あきら



和泉式部

あきら

あきら

あきら

あきら

あきら



紫式部

のるまありいみわ

あはれぬわらわら

あはれぬわらわら

あはれぬわらわら



大貳之位

有馬山らるの

うきうき風あはれ

あはれぬわらわら

あはれぬわらわら



河東法橋の
 婦の ぬみは
 くらの けい
 大の 金の 田の
 小の 部の 内の 侍



赤の 深の 瀬の 門の
 金の 原の 三の 子の
 花の 三の 浦の 小の 島の 小の 島の
 月の 海の 小の 島の
 小の 島の 小の 島の



伊藤大楠

ついでに

うき世の都乃

いざなひ

婦九

まじり

只新前



清女納言

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ



九京大寺通権

海老きりかき

くさきききききき

人ほむらかて

伊婦りかある



権中細言定頼

初初三月定信の

かききききき

あききききき

激ききききき



相模

恨みいふ

油あふ

かき

まじり

あふ



大僧正行身

かき

あふ

まじり

あふ



周防内侍

去時其法

伊予守り

御

也

ふりてく

名ふ

なり



三條院

ゆき

う

也

無

去時其法

伊予守り



能因法師

あはれしうゝまの

たの法りみら集ハ

をのしり新事也

あゝ法り字音利



良蓮法師

信解するが如くして

あゝまの

あゝ初久七のり

あゝ世にゆゑ



大納言宗信

父は中納言の
権宗信とて

あは法皇の
皇子とて



皇子内親王の御侍

神法
也
此
は
皇子

は
皇子の
御侍



1178
東中納言藤原房

藤原房

藤原房

藤原房

藤原房

藤原房

藤原房

藤原房



源俊賴初白

源俊賴初白

源俊賴初白



源俊賴初白

源俊賴初白

藤原景俊

笑あきまのしむし

はげしき命め

あきまのしむし

はげしき命め

あき



法性寺入道花岡白大政大臣

和国のさき

清らき心

久しき名

まゝのしむし

あきまのしむし



山宗徳院

新皇

御

御

御

御

御

御

御



源兼昌

御

御

御

御

御

御

御

御



後徳太子

ほろひ

ほろひ

宗

宗

月



道周法師

ほろひ

ほろひ

ほろひ

こう

寺

候



皇太子御成

像成

ら中よみらふられ

けりいり山の内よみ

より中よみらふられ



藤原清輔朝臣

家より中よみ

けり中よみらふられ

ら中よみらふられ

ら中よみらふられ



後東法所

其の決りたる所

修り得たる所

後法所

修り得たる所

三十一



和らみたる所

宗の決りたる所

西行法師



寂蓮法師

ひら白法 齋七

うらわち松の葉

骨きり地獄はらふ

好乃松久光



皇太后院別當

難波江の蓮法師

うら松久光

みまの松久光

あまの松久光

松久光



式子内親王

玉法緒

玉法緒

六のふ

よ

春



殷富門院大輔

名

み

と

の

神

名

名



後京極権政

木下政大右

御家へ書り申す

二つに書り申す

夜ついでに福の御

法華



二條院讃岐

新羅子

りまへ
りまへ

和の御

去りてみり

仲御石法

久



後名者大

在御宗より侍ひて

侍りて宗より侍ひて

河内法小婦祿所

侍りて宗より侍ひて



参議雅經

みどり御の御留乃

河内法小婦更て

婦より侍りて

河内法小婦更て



本大僧正意圖

修む身しんんん

せのんんんんん

わんんんんん

きみんんんん



入道本大政大臣

苑うぬ

あ〜んんん

雲んんん



んんんんん

んんんんん

権中納言定家

の忠人

うき
夕

は

み

鏡



従二位家隆

凡

小

み

あ



後鳥羽院

人よりけり

うき世のあら

まじ

花よりけり

りけり

まじ



順徳院

百もやも

新瑞の三乃

うき世のあら

まじ



畫所預從四位主佐守藤原光貞



右百人一首

外題 花山院愛德卿御筆

和歌 芝山持豐卿御筆

圖像 土佐光貞朝臣画

文化五年辰初秋刻成

鳳壽齋藏板

彫工
剡工

井上治兵衛
堀喜三郎

皇都書肆

脇坂仙治郎
吉田新兵衛

